平成２１年度

木津川市水道事業会計決算審査意見書

木津川市監査委員

２木監第　　３１　　号

平成２２年　８月１７日

木津川市長　河井　規子　様

木津川市監査委員　武　田　　治

木津川市監査委員　村　城　恵　子

平成２１年度木津川市水道事業会計決算審査意見について

地方公営企業法第３０条第２項の規定により、審査に付された平成２１年度木津川市水道事業会計決算を審査した結果について、別紙のとおり意見書を提出する。

１．審 査 の 対 象

平成２１年度　木津川市水道事業会計決算

２．審 査 の 期 間

平成２２年８月２日

３．審 査 の 方 法

決算審査にあたっては、決算書及び付属書類並びに基金運用状況調書が法令に準拠して作成されているか、計数の正確性、事務処理の適否、予算の執行状況等について検討するため、関係諸帳簿を照合し、また、関係職員より説明聴取を行い審査した。

４．審 査 の 結 果

審査に付された決算諸表は、審査した範囲において、いずれも地方公営企業関係法令に基づいて作成されており、計数については、適正に表示、処理されていると認められる。

なお、業務の概要及び損益の概要については、次のとおりである。

５．水道事業会計の概要

（１）業務の概要

事　　項	平成21年度(A)	平成20年度 (B)	比　較	
			増減(A)-(B)	比率
年度末給水人口	67,828　人	66,930　人	898　人	1.34　%
年度末給水戸数	24,689　戸	24,336　戸	353　戸	1.45　%
一日平均配水量	21,998　㎥	21,619　㎥	379　㎥	1.75　%
一日平均給水量	19,682　㎥	19,491　㎥	191　㎥	0.98　%
有収水量率	89.47　%	90.16　%	△0.69　%	△0.77　%
給水原価	184.3　円	179.4　円	4.9　円	2.73　%
供給単価	143.1　円	143.0　円	0.1　円	0.07　%

前年度と比較して給水戸数は353戸、給水人口は898人増加している。

有収率は、下水道工事に伴う配水管の布設替工事等により、年々木津(89.61%)区域は改善されてきたが、加茂(90.01%)・山城(88.06%)区域が悪化したため、今年度は 0.69ポイント低下している。今後も引き続き有収率の向上に努力されたい。

（２）損益の概要（税抜）　　（単位：円、％）

区　　分	平成21年度	平成20年度	増減額	増減率
営業収益(A)	1,033,583,372	1,023,339,379	10,243,993	1.0
①給水収益	1,027,872,720	1,017,144,344	10,728,376	1.1
②受託工事収益	0	87,168	△87,168	△ 100.0
③他会計負担金	1,578,000	1,574,000	4,000	0.3
④その他営業収益	4,132,652	4,533,867	△401,215	△ 8.8
営業費用(B)	1,294,623,371	1,241,455,183	53,168,188	4.3
①原水及び浄水費	693,737,931	713,995,954	△20,258,023	△ 2.8
②配水及び給水費	103,287,494	99,563,054	3,724,440	3.7
③総係費	149,580,220	151,603,230	△2,023,010	△ 1.3
④減価償却費	347,689,990	269,472,510	78,217,480	29.0
⑤資産減耗費	132,438	6,754,940	△6,622,502	△ 98.0
⑥その他営業費用	195,298	65,495	129,803	198.2
営業利益(A)－(B)　ア	**△261,039,999**	**△218,115,804**	**△42,924,195**	**19.7**
営業外収益（C）	322,075,908	350,016,364	△27,940,456	△ 8.0
①受取利息	417,512	4,320,649	△3,903,137	△ 90.3
②財政調整基金繰入金	265,668,238	288,571,429	△22,903,191	△ 7.9
③下水道負担金	46,443,488	45,949,887	493,601	1.1
④他会計繰入金	7,175,714	10,210,000	△3,034,286	△ 29.7
⑤雑収益	2,370,956	964,399	1,406,557	145.8
営業外費用(D)	29,086,841	34,594,130	△5,507,289	△ 15.9
①支払利息	27,573,679	34,394,630	△6,820,951	△ 19.8
②雑支出	1,513,162	199,500	1,313,662	658.5
営業外損益(C)－(D)　イ	**292,989,067**	**315,422,234**	**△22,433,167**	**△ 7.1**
当年度純利益（ア＋イ）	**31,949,068**	**97,306,430**	**△65,357,362**	**△ 67.2**

平成21年度における経営成績を表す収益的収支は、営業利益△2億6,103万9,999円、営業外損益2億9,298万9,067円で、3,194万9,068円の純利益を計上している。

営業収益が前年度と比較して1,024万3,993円(1.0%)増加しているのは、水道事業の柱である給水収益が1,072万8,376円(1.1%)増加したためである。

一方、営業費用も前年度と比較して5,316万8,188円(4.3%)増加している。増加要因は、平成２０年度に木津東配水池の完成及び中央地区における工事量の増により減価償却費が7,821万7,480円(29.0%)と大きく増加したためである。原水及び浄水費は、修繕費1,842万6,745円の減少等により2,025万8,023円(2.8%)減少している。

営業外収益は、前年度と比較して2,794万456円(8.0%)の減少。これは財政調整基金繰入金2,290万3,191円、簡易水道からの他会計繰入金303万4,286円、資金需要に対応するため、平成２０年度に大口定期預金を取り崩したことによる受取利息390万3,137円がそれぞれ減少したためである。

一方、営業外費用は、平成２０年度に企業債を繰上償還したことによる支払利息等の減

により 550 万 7,289 円(15.9%)減少している。

（３）資本的収支の概要（税込）　　（単位：円、%）

区　　分	平成 21 年度	平成 20 年度	増減額	増減率
資本的収入(A)	1,904,756,309	1,600,376,645	304,379,664	19.0
①加入金	94,951,500	108,181,500	△13,230,000	△ 12.2
②工事負担金	268,992,250	390,194,440	△121,202,190	△ 31.1
③基金繰入金	1,094,982,000	650,000,000	444,982,000	68.5
④その他資本的収入	445,830,559	452,000,705	△6,170,146	△ 1.4
資本的支出(B)	1,761,141,693	2,845,633,787	△1,084,492,094	△ 38.1
①建設改良費	1,160,429,653	2,252,511,738	△1,092,082,085	△ 48.5
②企業債償還金	154,881,481	141,121,344	13,760,137	9.8
③その他資本的支出	445,830,559	452,000,705	△6,170,146	△ 1.4
④予備費	0	0	0	0.0
収支差引(A)-(B)	**143,614,616**	**△1,245,257,142**	**1,388,871,758**	**111.5**

㊟資本的収入(1,904,756,309)－繰越工事資金(449,629,750)－資本的支出(1,761,141,693)＋前年度繰越工事資金(8,876,800)＝不足額 2 億 9,713 万 8,334 円は、過年度・当年度分損益勘定留保資金で補填している。

資本的収入は、前年度と比較して 3 億 437 万 9,664 円(19.0%)の増加。主たる要因は、基金繰入金の増加によるものである。

資本的支出は、前年度と比較して 10 億 8,449 万 2,094 円(38.1%)の減少。主たる要因は、ＵＲ（都市再生機構）の中央地区事業の遅れに伴う、木津川市第９期拡張事業の減によるものである。

以上の資本的収支の結果、年度末の資産は次のような推移となった。

（４）資産の推移（貸借対照表による）　　（単位：円、%）

区　　分	平成 21 年度	平成 20 年度	増減額	増減率
有形固定資産(A)	29,508,819,700	28,745,177,869	763,641,831	2.7
①土地	3,451,233,250	3,451,233,250	0	0.0
②立木	950,513	950,513	0	0.0
③建物	1,011,398,113	1,020,863,516	△9,465,403	△ 0.9
④構築物	21,624,983,251	21,328,725,744	296,257,507	1.4
⑤機械及び装置	1,408,112,015	1,440,992,548	△32,880,533	△ 2.3
⑥車両運搬具	4,239,647	5,911,629	△1,671,982	△ 28.3
⑦器具備品	11,596,793	11,918,181	△321,388	△ 2.7
⑧建設仮勘定	1,996,306,118	1,484,582,488	511,723,630	34.5
無形固定資産(B)	838,538	838,538	0	0.0
投資 (C)	2,564,252,287	3,490,976,728	△926,724,441	△ 26.5
流動資産 (D)	2,239,879,774	2,340,388,182	△100,508,408	△ 4.3
資産合計(A)(B)(C)(D)	**34,313,790,299**	**34,577,381,317**	**△263,591,018**	**△ 0.8**

資産合計額及び負債・資本合計額はそれぞれ343億1,379万299円となり、前年度と比較して、2億6,359万1,018円(0.8%)減少している。

有形固定資産のうち、木津中央地区の工事進捗等により構築物が2億9,625万7,507円(1.4%)、木津中央配水池の工事進捗等により建設仮勘定5億1,172万3,630円(34.5%)、それぞれ増加している。

一方、投資は、基金の取り崩しにより9億2,672万4,441円(26.5%) 減少している。

流動資産も現金預金の減少により1億50万8,408円(4.3%)減少している。

負債の推移（貸借対照表による）　（単位：円、%）

	平成21年度	平成20年度	増減額	増減率
固定負債(修繕引当金)	272,925,558	272,925,558	0	0.0
流動負債(未払金等)	406,513,134	1,016,281,958	△609,768,824	△ 60.0
資本金(自己資本金等)	1,623,170,644	1,778,052,125	△154,881,481	△ 8.7
剰余金(資本剰余金等)	32,011,180,963	31,510,121,676	501,059,287	1.6
負債・資本合計	**34,313,790,299**	**34,577,381,317**	△263,591,018	**△ 0.8**

流動負債は未払金が減少したことにより、6億976万8,824円(60.0%)、資本金は借入資本金（企業債）が減少したことにより、1億5,488万1,481円(8.7%)、それぞれ減少している。

一方、剰余金は資本剰余金の増加により、5億105万　9,287円(1.6%)増加している。

経営分析表

経営分析は、企業の活動成績や財務の状況を指標化することで財務諸表からは判断困難な動向や類似団体との比較を客観的に行うことができる手法である。

また、経営分析の必要性は、過去及び現在または類似団体の指標を用い多角的に分析を行うことで、将来への「効率的な企業経営」への道標となる。

区　　分	算　出　方　法	数　　値		
		21年度	20年度	類似団体⑳
（1）施設の効率性				
①有収率	年間総有収水量 / 年間総配水量	89.5 %	90.2 %	88.69 %
②施設利用率	1日平均配水量 / 配　水　能　力	73.1 %	71.8 %	60.3 %
（2）経営の効率性				
③総収支比率	総収益 / 総費用	102.4 %	107.6 %	106.8 %
③経常収支比率	営業収益＋営業外収益 / 営業費用＋営業外費用	101.9 %	106.8 %	106.96 %
④累積欠損金比率	当年度未処理欠損金 / 営業収益－受託工事収益	0.00	0.00	0.00
⑤職員一人当たりの給水人口	現在給水人口 / 損益勘定所属職員数	3,570 人	4,149 人	3,868 人
⑤職員一人当たりの営業収益	営業収益 / 損益勘定所属職員数	54,399 千円	63,959 千円	64,845 千円
（3）財務の状況				
⑥自己資本構成比率	自己資本金＋剰余金 / 負債・資本合計	96.1 %	93.9 %	71.24 %
⑦固定資産対長期資本比率	固　定　資　産 / 資本金＋剰余金＋固定負債	94.6 %	96.1 %	89.97 %

①施設効率を見る場合、施設の稼働状況がそのまま収益につながっているかについては、有収率で確認することが重要である。木津川市の有収率は、類似団体平均（88.69%）と同程度である。

②施設利用率は、配水能力に対する配水量の割合を示すもので、施設の利用状況を総合的に判断する上で重要な指標である。施設利用率はあくまでも平均利用率であるから、水道事業のように季節によって需要変動のある事業については、最大稼働率、負荷率と併せて施設規模を見ることが必要である。

③総収支比率は、収益性を見る際の最も代表的な指標である。例えば、経常収支比率は、経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すものである。従って、この比率が高いほど経常利益率が高いことを表し、これが 100%未満であることは経常損失が生じていることを意味する。

木津川市は総収支比率、経常収支比率とも 100%を上回っており、類似団体平均（総収支比率 106.8、経常収支比率 106.96%）をやや下回っているが、比較的健全な経営状況にあるといえる。

④累積欠損金比率は、事業体の経営状況が健全な状態にあるかどうかを、累積欠損金の有無により把握しようとするもので、営業収益に対する累積欠損金の割合をいう。木津川市は、累積欠損金が発生しておらず、比較的健全な経営状況にあるといえる。

⑤損益勘定所属職員 1 人当たりの生産性について、給水人口及び給水収益を基準として把握するための指標である。なお、生産性の向上は、設備投資や管理の効率化、業務の委託化と密接に関連しているので、生産性の指標は、設備投資や費用に関する他の指標と併せて総合的に判断する必要がある。

⑥自己資本構成比率は総資本（負債及び資本）に占める自己資本の割合であり、水道事業は施設の建設費の大部分を企業債（借入資本金）によって調達していることから、自己資本構成比率は低くなる傾向にあるが、事業経営の安定化を図るためには、自己資本の造成が必要である。木津川市の自己資本構成比率は、類似団体平均（71.24%）を上回っている。

⑦自己資本構成比率と同様、事業の固定的・長期的安全性を見る指標である。固定資産対長期資本比率は、資金が長期的に拘束される固定資産が、どの程度返済期限のない自己資本や長期に活用可能な固定負債などの長期資本｛自己資本（自己資本金＋剰余金）及び長期借入金（借入資本金＋固定負債）｝によって調達されているかを示すものである。この比率は常に 100%以下で、かつ、低いことが望ましい。100%を上回っている場合には、固定資産の一部が一時借入金等の流動負債によって調達されていることを示す。

６．総 括 的 意 見

平成２１年度木津川市の水道事業損益では、3,194 万 9,068 円の純利益を計上しているが、これは財政調整基金 2 億 6,566 万 8,238 円の繰入れによるものであり、実質は赤字経営が続いている。また、資本的収支では、1 億 4,361 万 4,616 円の黒字となっているが、木津中央配水池築造事業を継続費逓次繰越としたため、工事資金（4 億 4,962 万 9,750 円）分を基金繰り入れしたことによるものである。

本年度の施設整備事業では、上水道第９期拡張事業(送・配水管布設延長 2,796.2m)や公共下水道事業の整備に伴う給配水管(596.4m)の布設替えなどが施工された。

経営収支では、1 ㎥当りの給水原価は 184.3 円（前年度 179.4 円）であり、これに対する供給単価は 143.1 円（前年度 143 円）である。差し引き 41.2 円の給水損失が生じている。前年度と比較すると 4.8 円悪化している。

なお、水道料金については、公営企業である水道事業は独立採算が基本であり、原価を基本にした水道料金という原則を目標値とすべきと考える。

木津川市水道料金及び公共下水道使用料審議会の答申が22年中に出される予定である。

水道料金の統一(値上げを含む。)について、市民の理解を得るための経費節減努力や水道料金の収納率向上は不可欠である。また、過年度滞納分(7,706 万円)が多額になっており、利用者負担の公平性からも、積極的な滞納整理対策を実施していただきたい。

また、たな卸資産についても的確な処理をしていただきたい。

昨年度の決算でも述べたが、水道料金改定については、一気に原価まで値上げをするということではなく、経営努力を推進するとともに、市民に対して将来の計画を明らかにし、必要に応じ基金を投入しながら、段階的に料金改定を実施していくといった手法で検討していただきたい。

今後の企業経営において、中央地区の事業推進により構築物及び建設仮勘定が大きく増加しており、また、水道施設の維持・更新や耐震化の推進などの取り組み等、経費が増加することが懸念される中、市民の節水意識の定着と厳しい経済状況から水需要の増加はあまり期待できない。こうした状況を踏まえ、さらなる経費の削減に努め、経営基盤の強化や効率的で健全な事業運営により、安全で良質な水を安定的に供給できるように努めていただきたい。

（参考）旧３町での状況

旧木津町域

事項	平成 21 年度 (A)	平成 20 年度 (B)	比　較	
			増減 (C)　(A)-(B)	比率 (C) /(B)
年度末給水人口	45,245　人	44,243　人	1,002　人	2.26　%
年度末給水戸数	16,423　戸	16,159　戸	264　戸	1.63　%
一日平均配水量	14,865　㎥	14,777　㎥	88　㎥	0.60　%
一日平均給水量	13,321　㎥	13,102　㎥	219　㎥	1.67　%
有収水量率	89.61　%	88.67　%	0.94　%	1.06　%
給水原価	189.5　円	202.9　円	△ 13.4　円	△ 6.60　%
供給単価	140.1　円	139.9　円	0.2　円	0.14　%

旧加茂町域

事項	平成 21 年度 (A)	平成 20 年度 (B)	比　較	
			増減 (C)　(A)-(B)	比率 (C) /(B)
年度末給水人口	13,499　人	13,611　人	△ 112　人	△ 0.82　%
年度末給水戸数	5,111　戸	5,023　戸	88　戸	1.75　%
一日平均配水量	4,082　㎥	4,041　㎥	41　㎥	1.01　%
一日平均給水量	3,674　㎥	3,731　㎥	△ 57　㎥	△ 1.53　%
有収水量率	90.01　%	92.33　%	△ 2.32　%	△ 2.51　%
給水原価	190.5　円	170.0　円	20.5　円	12.06　%
供給単価	148.4　円	148.1　円	0.3　円	0.20　%

旧山城町域

事項	平成 21 年度 (A)	平成 20 年度 (B)	比　較	
			増減 (C)　(A)-(B)	比率 (C) /(B)
年度末給水人口	9,084　人	9,076　人	8　人	0.09　%
年度末給水戸数	3,155　戸	3,154　戸	1　戸	0.03　%
一日平均配水量	3.035　㎥	2,801　㎥	234　㎥	8.35　%
一日平均給水量	2,687　㎥	2,658　㎥	29　㎥	1.09　%
有収水量率	88.06　%	94.86　%	△ 6.80　%	△ 7.17　%
給水原価	151.9　円	141.5　円	10.4　円	7.35　%
供給単価	151.0　円	150.8　円	0.2　円	0.13　%